

千葉学習センター客員教員による

「ミニゼミ」 受講生募集！

「ミニゼミ」は放送授業や面接授業と違い、少人数で教員を囲みながら、各教員の専門分野をテーマに、発表、討論、実験、観察、課外活動など様々な学習スタイルで行われています。年齢や性別も異なる学生のみなさんが、指導教員のもと、共通のテーマを学びながら毎回楽しく活動しています。興味のあるテーマを学ぶとともに、他の学生や教員と交流していただくことも目的としていますので、試験や成績判定といったことはありません。

2021年度4月期は9のゼミで受講生を募集します。放送大学の学生であれば、どなたでも無料（一部ゼミは費用負担あり）で参加できますので、ご興味のある方は、是非お申込みください。なお、2020年度よりZOOMを利用した遠隔ゼミを実施するゼミがありますので、ご自宅等のネット環境等ご確認願います。

【参加申込方法】 4月10日(土)14時から申し込みを開始します。

- ① 千葉学習センターHPより「ミニゼミ参加申請書」を入手し、必要事項を記入のうえ、学習センターへメールでご提出下さい。メールアドレスは chibagaku_soumu@ouj.ac.jp です。 ※原則先着順とし募集定員がオーバーした場合は、その時点で募集を終了します。また、事務室への直接申込、電話、郵送等での受付は行いません。
- ② 申請書の提出後、学習センターより各講師へ申請書をお送りし、講師から受講の可否について回答があり次第、センターより結果および次回開催日時をご連絡します。

※掲載内容は、2021年5月29日現在のものです。今後、**定員に達した時点で募集を中止します。**

偏光顕微鏡で石を見る（廣井先生ゼミ）

○講師：廣井 美邦（千葉大学名誉教授）

○募集定員：数名

○開催日時：原則として、月1回、主に日曜日（13:30～16:00）。初回開催日 4月25日（日）

○内容：足元にある石の研究は、約0.03mmの厚さの薄片を偏光顕微鏡で観察することによって大きく飛躍しました。肉眼やルーペではあまりよく分からない石の特徴がよく分かり、新しい世界が広がります。現在では、電子顕微鏡による観察も普通になりましたが、偏光顕微鏡観察の重要さは変わりません。そこで、このゼミでは、偏光顕微鏡による石の観察をもとに、それぞれの石の特徴や生い立ちについて話し合います。また自分で石の薄片を作る作業も行います。

○受講条件：石の偏光顕微鏡観察は、専門科目（自然と環境）でも実施しますが、あまり時間が取れませんが、このゼミで、ゆっくりと石の偏光顕微鏡観察を楽しんでいただきたいと希望しています。石の観察の入門書としては、千葉県立中央博物館の高橋直樹さんと大木淳一さんによる「石ころ博士入門」（全農教・観察と発見シリーズ）があります（参考図書）。

きのこの科学（根田先生ゼミ）

○講師：根田 仁（農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター 新技術開発部 研究リーダー）

○募集定員：8名

○開催日時：原則、月1回、主に土曜日あるいは日曜日

○内容：きのこは、かびのなかま（菌類）で、自然界では有機物分解・菌根形成を行い、栄養を得ているとともに、生態系において重要な働きをしています。

また、シイタケ、エノキタケなどの食用きのこは、多くの日本人に好まれ、その生産は農山村の経済をささえています。

そして、昔から「きのこ狩り」を楽しむ人が多く、文化的な意義も大きい生き物です。近年は、人々の健康を増進する化学成分の研究・利用も行われています。このようなきのこの魅力について共に学んでみませんか？本ゼミは、体験重視ですので特別な基礎知識は必要ありません。共に体験し、学びましょう。野外でのきのこなどの自然観察、研究機関・博物館訪問も予定しています。

初回開講時に、参加者から、今年度のゼミ内容に関するご希望を伺いますので、まずは、参加され、ゼミ内容の企画自体に加わってみられませんか？なお、興味のある項目だけに参加いただくことでも歓迎です。

○受講条件：野外観察の学外での活動や実験室で培養実験を予定していますので、これらの活動に参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。初回に参加できなくても、定員以内であれば、いつからでも参加可能です。なお、学内で開催するゼミのみへの参加も歓迎です。学外での野外活動がありますので、参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。（ゼミは教室での対面を原則としますが、ZOOMを利用した遠隔での参加も可能です。）

植物を学び楽しむ (中村先生ゼミ)

○講師：中村 俊彦 (東京大学大学院農学特定支援員)

○募集定員：3名

○開催日時：毎月1～2回 (原則として水曜日の13:30～16:00)

○内容：南北に長い日本列島は、世界的に多種多様な植物が生育する地域です。そのなかでも房総半島とその周辺では、落葉広葉樹など北方の冷温帯系植物と常緑広葉樹など南方の暖温帯系植物とが出会いまた共存するきわめて豊かな植物相がみられます。このような植物を四季を通じてさまざまな場所で観察し、また写真撮影や標本づくりもしながら親しみ、みんな一緒に楽しく学んでいきたいとおもいます。

○観察対象：森林・樹木、サクラ、雑草・野草、イネ、コケ、菌類、海藻など

○観察場所：大学構内、房総の里山里海、谷津田、近隣の公園・緑地など

○受講条件：学外での野外活動がありますので、参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。

自然科学における論理的思考 (山田先生ゼミ)

○講師：山田哲弘 (千葉大学教育学部教授)

○募集定員：10名程度

○開催日時：原則、毎月1回。土曜日の午前10時30分～。

○内容：多くの人間は、根拠はなくてもおおよその話が好きで詳細かつ厳密な話を嫌う傾向があるようです。定性的な話はわかっていても定量的な話はきらい (理解する気にならない) とも言えましょう。しかし、定量的な話がわかるようになると、身近な現象は一層わかるようになるもので、そうなれば自然科学への興味は、さらにかき立てられるはずです。このゼミではこれまで感覚的に捉えてきた自然現象を定量的に捉えることで、教科書や書籍を読むだけでは習得できない自然科学の原理・原則の落とし穴に目を向け、論理的な思考を育てていくことを目標とします。理解しようとする思いが高まれば、無味乾燥な文章に付き合うことも苦にならなくなることでしょう。

○受講条件：実験をすることがあるため、学生保険加入が必要です。気体の状態方程式など高校化学の学習内容についての知識を有すること、また指数・対数計算のほか簡単な微分方程式を理解していることが望ましい (理解していなければ受講できないというものではありません)。

○その他：緊急事態宣言が開けてからの開講といたします。

ヴァイオリン・アンサンブルの楽しみ (伊藤先生ゼミ)

○講師：伊藤 誠 (埼玉大学教育学部名誉教授)

○募集定員：1名

○開催日時：原則、基本的に水曜日 (月ごと3回開催)。

○内容：ヴァイオリンの構え方、楽器の手入れの仕方から始まり、音程づくりの初歩はピチカート奏法 (指で弦を弾く方法) で進めます。左手の型が身に付いてきた時点で、弓 (ボウイング) を使って音を作っていきます。導入期の教材は「わらべうた」や「童謡」ですが、単に楽譜通りに演奏するだけでなく、簡単なアンサンブルの形態を取り入れながら、楽しく楽器に親しんで頂くことをねらいとしています。個別指導と集団学習を併用します。他の受講生の練習を参観することも大切です。自分が属さないグループが参加する週に見学することは自由です。時間のゆとりがある方は予習・復習に役立てて下さい。

○受講条件：ヴァイオリン学習未経験の方々、大歓迎なのですが、**簡単な楽譜が読める**ことと、**楽器を持参できる方**を条件に受け入れます。これを機に楽器の購入をお考えの方は、伊藤に相談して下さい。楽譜や資料は、毎回伊藤が用意しますので、特に購入して頂くテキストはありません。

○その他：初回 (4月22日 木) に、配属するグループを決めますので、11:00に集合して下さい。毎回の時間配分は 1) 11:00～12:00、2) 13:00～14:30、3) 14:45～15:45 となっています。1) と3) は全体指導 (=集団学習)、2) は個別指導です。

スペイン語原書講読 (青砥先生ゼミ)

○講師：青砥 清一 (神田外語大学教授)

○募集定員：10名程度

○開催日時：第1・3土曜日 14:00-16:00 初回開講日5月15日 (土) 14:00～16:00 *初回はオリエンテーションを含む

○内容：スペイン語は世界21の国と地域で話されており、地域的なバリエーションが非常に豊かな言語です。このゼミでは、スペインとラテンアメリカのスペイン語を学び、スペイン語圏の多様な言語文化を考察します。また、学習相談の時間を設け、初級～中級スペイン語文法やスペイン語学習法の疑問にもお答えします。

○受講条件：初級スペイン語の学習歴。

○その他：プリントを配布します。

音環境文化ゼミ(Soundscape, Acoustic Ecology, Sound Culture)(兼古先生ゼミ)

○講師：兼古 勝史（立教大学社会学部メディア社会学科兼任教員、日本サウンドスケープ協会会員・理事）

○募集定員：10名

○開催日時：毎月2回：原則として隔週土曜日 14:00-16:00 及び時に野外フィールドワーク（2ヶ月に1回4h程度 休日の日中）

※フィールドワークへの参加は任意 初回開講日 4月24日（土）12:30-15:00

○内容：私たちの周りには音楽・騒音・自然環境音・暮らしや日常の音など様々な音があります。こうした音世界を人間が体験する「風景」としてその意味や価値を考えるのがサウンドスケープ研究です。本ゼミではこのサウンドスケープの考えをベースに、「音」「音風景（サウンドスケープ=Soundscape）」をキーワードに地域・環境・社会・メディアを探り、音のフィールドワークやアーカイブの作成、音によるメディア発信を目指します。様々な音風景や音環境デザインの現場を体験する「野外フィールドワーク」と、地域の音風景の歴史と変遷を過去の資料から調べる「イヤーフットネス調査」、生活や環境の中からなくなってしまった・なくなりつつある音について調査しまとめる『音のレッドデータブック』の制作・録音、及び音のメディア表現としての「ゼミ発ネットラジオ」の発信（秋または翌年以降）などを目標とし、参加者の状況や人数、希望によって内容・分担を決めていきます。

○受講条件：特に条件はありませんが、責任をもって成果物の制作（取材や録音、記事作成を含む）や発信にご参加いただけることを希望します。

パソコンの初歩的な経験（ワード、エクセルの簡単な操作）ができることが望ましいです。野外フィールドワークの際、別途交通費や場所によっては入場料、音風景関連のイベント・体験プログラム（希望者のみ）等の参加費等がかかる場合があります。（新型コロナ感染の拡大の状況によって、フィールドワークの予定が変更または中止になる場合があります。）

なお、参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。

（ゼミは教室での対面を原則としますが、ZOOMを利用した遠隔での参加も可能です。）

公民館をめぐる今日的課題を考える(長澤先生ゼミ)

○講師：長澤 成次（放送大学千葉学習センター所長）

○募集定員：10名程度

○開催日時：原則、月1回木曜日 13:00~15:00 初回開講日 4月22日（木）15:00~17:00 *初回はオリエンテーションも含む

○内容：公民館は、1946年（昭和21年）に当時の文部省が全国に設置を呼びかけ、現在は、全国に約13000館、千葉県には約300弱の公民館が設置されています。公民館は、図書館・博物館とならぶ社会教育施設であり、社会教育法にもとづいて設置・運営されている社会教育施設です。本ミニゼミでは、公民館に関するテキストを受講学生と読みながら、公民館をめぐる今日的課題について参加者とともに考えていきます。

○受講条件：① テキストを分担して発表してもらいますので、授業に参加するためには、予習等が必要です。

② ゼミに継続して参加できる方。

③ テキストを使用しますので、テキスト購入代がかかります。

所長セミナー：卒業研究入門ゼミ(長澤先生ゼミ)

○講師：長澤 成次（放送大学千葉学習センター所長）

○募集定員：10名程度

○開催日時：原則として土曜日 13:00~15:00 *月に1回程度。

初回開講日 4月24日（土）13:00~15:00 *初回はオリエンテーションを含む

○内容：これから卒業研究にとりくもうとする学生、あるいは現在、卒業研究に取り組んでいる学生から関心のあるテーマに基づいて発表していただき、参加者とともに学びあうゼミです。すでに卒業研究を修了された方の参加も歓迎します。

子どもを理解し、子どもに学ぶ(金子先生ゼミ)

○講師：金子 智栄子（文京学院大学教授）

○募集定員：10名~15名程度

○開催日時：第2・4金曜日 13:00~ 初回開講日 4月23日（金）13:00~ *初回はオリエンテーションを含む

○内容：子どもは可愛いですが、それ以上に面白い存在です。特に年齢が低いほど見るものすべてが新鮮で、この世は発見に満ちています。よちよち歩きの赤ちゃんは、知的好奇心に満ち溢れたキラキラしたまなざしをもっています。そのようなまなざしを大人になっても持ち続けられたら、人生は幸せなことでしょう。乳幼児期の体験は、その後の発達にも大きな影響を与えます。そこで、乳幼児期からの子どもの発達について共に学び、子どもの素晴らしさを共有したいと思っています。さらに受講生ご自身の発達についても、振り返る機会にしたいと思っています。

○受講条件：初回開講時に、参加者から、今年度のゼミの内容についてご要望を伺います。状況によっては、ご相談のうえテキストを使用することがあります。